

# 令和 5 年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立和歌山さくら支援学校 校長名：溝端 英二

## 目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

目指す学校像：地域に根ざした学校として、保護者のみならず地域との連携により、互いに支え合い認め合う環境を目指す。  
 様々な教育活動を通して、各々の持てる力や個性を伸ばし、社会で主体的に生き、切り拓こうとする意欲と態度を育てる。  
 育てたい生徒像：キラキラ輝く人になろう

## 学校評価の公表方法

- ・校内において全職員で評価を確認する。
- ・学校運営協議会において地域、保護者の方等と評価をする。
- ・ホームページで公表する。

## 現状・進捗度

A	十分に達成している。（80%以上）
B	概ね達成している。（60%以上）
C	あまり十分でない。（40%以上）
D	不十分である。（40%未満）

## 自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組				評価（2月7日現在）		
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	子どもが主語となる授業づくりを深め専門性の向上を図るために授業づくりの基礎を学校全体で共通理解し、実践する。	C	毎週の授業の振り返りの時間を確保する。	週1回授業の振り返りの時間を学校全体として確保できたか。	A	毎週金曜日を評価会に設定し、授業等の振り返りの時間を設定できた。	評価会を設定し、授業改善ができる時間は引き続き確保する。子どもが主体的に動ける環境や障害特性に応じた授業等、本校職員の自己評価は高い。一方、実際の授業等では、子どもが主体的に動くための支援が職員の声かけ等が主となる支援となっている。そこで、次年度は、目標とできる授業（比較できる授業）を提案し、再度授業を振り返る。また、障害特性については、年度当初4月及び随時、20分間の研修の時間をとり、学校全体で共通理解していく。また、今年度取り組んだ単元づくりや自立活動等の研修は継続していく。
			子どもがわかる授業環境について共通理解する。	子どもがわかって動ける環境を設定した授業ができたか。（学校評価アンケート 60%以上）	B	71%の職員は学習環境が設定できていると回答している。しかし、実際の授業では子どもへの支援の量が少ない現状である。	
			障害特性について理解し、授業づくりを行う。	障害特性に支援した授業ができたか。（学校評価アンケート 60%以上）	B	児童生徒の実態等十分に把握し、指導を進めているとの回答が89%であった。	
			単元計画を作成するための研修時間を確保する。	教職員が共同で3観点を取り入れた単元計画を立てることができたか。	C	単元計画の中に3観点を入れた計画を作成する研修を行った。現状は、知ることができた段階である。	
			自立活動の指導における中心的な課題を導き出す研修を実施する。	中心的な課題の導き方等について理解できたか。（アンケート 60%以上）	C	研修を設定し、みんなで話し合うことの意義等の理解は得られた。しかし、中心的な課題の導き方やその理解には、次年度も研修が必要となる。	
2	和歌山北高等学校西校舎との交流及び共同学習について深める。	C	交流及び共同学習を再開する。	コロナ以前の水準まで交流及び共同学習が取り組めたか。（4年前の実施回数と比較し5割以上）	B	概ねコロナ禍以前の交流の取組を実施することができた。応援旗の交換、文化祭、スポーツ祭への参加、和歌山北高等学校西校舎生徒による小学部への絵本等の読み聞かせ、中学部水泳指導	今年度の交流を継続して進める。学期に1回高等学校と本校の管理職が連携会議を実施している。次年度は、主事や校務分掌部長も出席し、高等学校の職員と互いに連携について協議確認していく方向で進める。（顔を合わせるところから始めて行く）
			共同学習できる学習内容を検討する。本校の教育課程の見直しにつながるようにする。	和歌山北高等学校の教育課程や教育内容について知り、共同で行う教育内容を検討できたか。	B	教務部長間で、高等学校の教育課程等、情報を得ることができた。また、通級指導教室「ライフキャリア」と本校高等部3年の「ライフワーク」の授業を互に見合う取組を行えた。	
3	地域、保護者等関係者の方と学校運営協議会を含め、本校の取り組みを広げる。	C	地域のニーズを知り、地域の方にニーズに合わせた取り組みを行う。	地域の方のニーズに合わせた取り組みができた。（コーディネーター実施報告結果）	C	相談回数22回で10校の相談に対応した。相談内容は、気になる行動とその対応が5件、次いで和歌山北高等学校西校舎通級指導教室との連携が3件となっている。高等部が幼稚園への読み聞かせ交流を実施した。	校内の授業力を持って地域のセンター的機能を果たす必要がある。次年度も引き続き、学校運営協議会委員等、授業を参観いただき、意見をいただく機会を設定する。また、保護者が他学部の授業も参観できる機会を設定する。
			本校の課題を説明し、協力を願う。	授業づくりへ3回以上協力いただくことができたか。	B	授業見学後に意見をいただくことができた。引き続き様々な人に授業を見ていただく機会を設定し、意見をいただいていく。	

## 学校関係者評価（2月7日実施）

### 【委員からの意見】

- ・和歌山北高等学校西校舎の生徒と本校中学部生徒の水泳指導における交流及び共同学習について互いが楽しみにできている。今後ももっと交流が増えることを期待している。
  - ・和歌山北高等学校西校舎の生徒にとって、他と交流していくことでの成長があり、支援学校で行われている作業学習で一緒に働くなどの交流も考えられないかと思う。
  - ・実際支援学校を見ると生徒のできることがよくわかる。地域の人に見てもらい、わかってもらう機会が必要である。年2回ぐらいの機会があるといい。
  - ・販売活動において、「私が作りましたメッセージ」などを添えて販売することで製品を作っている生徒の達成感も得られるのではないか。
  - ・第2回学校運営協議会での意見を受け、自己評価し改善しているところはとても良いことである。
  - ・高等学校と支援学校の強みを生かした取組ができていければと思う。
  - ・先生の多忙さについてライフワークバランスを評価する項目があっても良いのではないか。
  - ・先生の使命感に頼り過ぎていないか。民間にできることは民間に頼ってもいいのではないか。 など
- 【学校として今後の方向性】**  
 上記の意見から、和歌山北高等学校西校舎との交流及び共同学習は、今後も広げ深めていきたい。また、職業科の指導に際し、委員の協力など得て、取組について工夫し深めていきたいと考える。  
 また、ワークライフバランスの評価の導入等も今後、取り組んでいきたいと考える。